2015年3月19日発行 ■発行責任者／長谷川利彦 ■編集・制作／（株）プロトリオス ■発行／（株）NGP 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2F TEL03(5475)1200 定価／1部30円

NIPPON GOOD PARTS NGP NEWS
2015 No.288 3月号
全国整備工場の皆様へNGP組合員200拠点がお届けするお役立ち情報

日整連、平成26年度「自動車分解整備業実態調査」を公表

車検・定期点検・その他整備は好調も 事故整備は等級制度改定の影響が顕著に

日本自動車整備振興会連合会（日整連）が、平成26年度（2014年度）の「自動車分解整備業実態調査」を公表しました。今回の調査結果は、2014年6月末時点のデータで、そのうち売上高などは同年6月末時点に最も近い決算期分の数値を採用するため、実質的には2013年4月～2014年3月の実績数値となります。

総整備売上高は前年度比1.8%上昇し952億円増加の5兆5,169億円で、全業態別で2年連続のプラスとなりました。特に専業整備工場は同3.2%上昇して、646億円増加の2兆968億円と伸び幅が比較的大きく、全体の回復基調をけん引しています。

作業内容別では、軽自動車を含む自家用乗用車が対象となる「2年車検整備」が、専業・兼業整備工場では、前年度比5.0%上昇し、417億円増加の8,725億円となったのに対し、ディーラーでは、前年度比2.9%下降し、202億円減少の6,752億円へ転じており明暗が分かれる結果となっています。

これは、初回車検の対象となる2010～11年式の車両が東日本大震災、さらに、2回目車検の対象となる 2008～09年式の車両がリーマンショックの影響を受けた年度であり販売台数を大きく減らした時期にあたるため、いわゆる「2014年問題」による影響が現出したものと考えられます。

反面、貨物車や事業用車が対象となる「1年車検整備」では、震災復興や2020年東京オリンピック特需、2005年排出ガス規制適合車の代替などで、新車販売が好調に推移していることを受け、対前年度比9.4%上昇し、475億円増加の5,517億円と「2014年問題」の影響を受けなかった結果となっています。特に、ディーラーの伸張は目覚ましく、前年度比36.4%上昇し、356億円増加の1,335億円となっています。

「3ヵ月定期点検整備」においては、全体で前年度比16.1%上昇し、61億円増加の441億円となり、ディーラーでは前年度比68.0%上昇し、51億円増加の126億円に急伸しています。このように、車検・定期点検整備、その他整備の分野では回復傾向が見受けられます。

しかし事故整備は、前年度比3.4%下降し、438億円減少の1兆2,303億円と、打って変わり減少に転じました。その原因のひとつが言うまでもなく、2012年10月より始まった自動車保険の等級制度改定と考えられます。

同改定で事故有係数が追加されたことにより、保険事故修理における保険を使用する場合と保険を使用しない場合の経済的損益分岐点が大幅に上がったため、リサイクル部品を用いてより安価に自費で修理したいというニーズが確実に増大し、保険請求を放棄するケースが増加傾向にあると見られています。

また、リサイクル部品の存在を知らず、純正新品部品を用いる修理見積りと保険使用後の保険料シミュレーションのみが提示されたことで、走行上大きな問題はないレベルの損傷は修理せずそのまま乗り続ける、という決断を下したカーオーナーも少なからず存在しているものと思われます。

このような自動車保険等級制度改定後の市場変化への対応策として、かんたん鈑金見積システム「ぱっと！ くん」を、NGP協同組合とあいおいニッセイ同和損害保険（株）で共同開発しました。

「ぱっと！ くん」は、新品部品の修理見積りと、NGPリサイクル部品を用いる場合の自費修理見積りを同時に作成する仕様となっており、カーオーナーがひと目で比較できるよう工夫されています。

また、お役立ち情報として、あいおいニッセイ同和損害保険（株）の保険料シミュレーションソフトや、NGPリサイクル部品の保証内容及び修理事例、CO_2削減効果などを詳しく紹介する動画も収録して、NGPリサイクル部品を活用した自費修理を「ぱっと！ くん」だけで提案できるようにしました。

NGP協同組合では、リサイクル部品用活優良工場紹介サイト「NGPエコひろば」（http://www.eco-hiroba.net/）に登録する自動車整備・修理工場の皆様を中心に提案を行っています。「ぱっと！ くん」及び「NGPエコひろば工場登録」については、最寄りのNGP組合員へぜひお気軽にご相談下さい。

平成26年度　業態・作業内容別整備売上高

業態		作業内容	車検整備			定期点検整備				事故整備	その他整備	合計
			2年	1年	小計	1年	6ヵ月	3ヵ月	計			
専・兼業		売上高	8,725	3,975	12,700	534	138	270	942	5,711	8,170	27,523
		増減額	+417	+72	+489	+41	+4	+14	+59	-168	+395	+775
		増減比	+5.0%	+1.8%	+4.0%	+8.3%	+3.0%	+5.5%	+6.7%	-2.9%	+5.1%	+2.9%
	専業	売上高	6,332	3,313	9,645	377	105	231	713	4,361	6,249	20,968
		増減額	+357	+1	+358	+32	+3	+7	+42	-130	+376	+646
		増減比	+6.0%	±0.0%	+3.9%	+9.3%	+2.9%	+3.1%	+6.3%	-2.9%	+6.4%	+3.2%
	兼業	売上高	2,393	662	3,055	157	33	39	229	1,350	1,921	6,555
		増減額	+60	+71	+131	+9	+1	+7	+17	-38	+19	+129
		増減比	+2.6%	+12.0%	+4.5%	+6.1%	+3.1%	+21.9%	+8.0%	-2.7%	+1.0%	+2.0%
ディーラー		売上高	6,752	1,335	8,087	1,738	227	126	2,091	6,022	8,995	25,195
		増減額	-202	+356	+154	+181	+1	+51	+223	-254	-43	+90
		増減比	-2.9%	+36.4%	+1.9%	+11.6%	+0.4%	+68.0%	+12.5%	-4.0%	-0.5%	+0.4%
自家		売上高	688	207	895	100	21	45	166	570	820	2,451
合計		売上高	16,165	5,517	21,682	2,372	386	441	3,199	12,303	17,985	55,169
		増減額	+225	+475	+700	+203	+6	+61	+270	-438	+420	+952
		増減比	+1.4%	+9.4%	+3.3%	+9.4%	+1.6%	+16.1%	+9.2%	-3.4%	+2.4%	+1.8%

（出典：日本自動車整備振興会連合会「平成26年度 自動車分解整備業実態調査結果の概要について」）　（単位：億円）

金澤信・経産省自動車リサイクル室長が北陸の自動車リサイクル事業者を視察

業界のさらなる発展に向けた リーダーとしての責務を再認識

２月５・６日の両日に渡り、経済産業省 製造産業局 自動車課 自動車リサイクル室長の金澤信氏が、業界の中でも先進的とされる北陸地区の自動車リサイクル事業者を視察訪問されましたので、ご紹介いたします。

初日は、午後より石川県庁環境政策課を訪問され、同地区が抱える自動車リサイクル法における自動車リサイクル事業許認可問題点などについてのヒアリングがなされました。さらに、金沢市にある日本トラックリファインパーツ協会本部事務所を訪問して、コモンレールディーゼルのベンチテスターを見学したほか、国内大手の会宝産業(株)を訪問し、自動車リサイクル部品輸出の現状と課題についての情報交換を行っています。

翌６日は、NGP協同組合の戸田暢生理事および佃正人・組織指導委員会委員長の引率で、NGP北信越リサイクル工場（富山県黒部市）の工場見学を実施しています。同工場は、NGP組合員６社で運営しているシュレッダー工場です。

NGP北信越リサイクル工場では、NGP山田彰副理事長、NGP北信越リサイクル協同組合の堀川健志理事長のほか、(株)ハセ川自動車の堀川茂樹専務が出迎え、同シュレッダー工場の沿革や現状の問題点など、多岐にわたる情報交換が行われました。

金澤室長は、自動車解体業者がシュレッダー事業に進出した経緯などに関心を持たれ、今後はシュレッダーダストの減量や希少金属の回収など、解体事業者とシュレッダー業者との緊密な連携を模索するための方向性について、コメントされています。

さらに、NGP北信越リサイクル工場内で様々なデータが収集されていることを確認しながら、これらデータの活用と公開に向けて、より透明性のある業界にすべきと意見を述べられました。

さらに、NGP協同組合理事長が経営する(株)ハセ川自動車の工場訪問をなされています。(株)ハセ川自動車は、NGPの中でも最大規模で自動車リサイクル事業を経営する会社です。富山県魚津市にある本社のほか、同県滑川市、長野県中野市、同県塩尻市に拠点を展開しています。

同社の堀川専務が「環境にとって非常に意義ある事業をしているのですが、まだまだ一般の方々には認知されていない業界実情があり、事業展開も苦労しています」という談話を伝えたところ、金澤室長も「これからの自動車リサイクル業は、もっと一般の人に知っていただくための啓発活動が不可欠である」とコメントされ、NGP協同組合が環境展示会「エコプロダクツ」に出展していることなどは極めて効果があると話されていました。

同工場の解体工程では、安全で効率的な解体作業に興味をもたれ、リユース部品の取り外しから商品美化作業までの工程管理などについて特に多くご質問されました。また、PP（ポリプロピレン）やレアメタル（希少金属）の回収にも深く興味を示されました。

金澤室長は、「これからの日本の産業において、自動車リサイクル事業は大変重要な位置付けにあります。リサイクル業界団体が一致団結し、オールジャパンでビジネスモデルの完成形を目指すべきです」と話をされています。さらに「次世代育成には、若手経営者・スタッフ同士の業界内交流をより活発化させ、業界カイゼン活動に取り組むことが、さらなる業界発展につながる」とも提言しています。

今回の金澤室長の訪問を通じ、NGP協同組合への期待は大きく、業界のリーダーとして精進していく責任があることを深く考える機会となりました。

金澤室長（右から３人目）とNGP北信越メンバー

NGP北信越リサイクル工場での破砕作業を視察する金澤室長

ハセ川自動車では素早く安全な解体作業の様子を念入りに確認

NGP 今月のCO_2削減量

リサイクル部品利用に伴う削減効果

平成27年1月：**4,106t**

※一般社団法人 日本自動車工業会が1998年に公開している自動車LCA（ライフサイクルアセスメント）データをベースに、NGPにて1500cc車両の部品重量調査結果からCO_2削減効果参考値を算出しております。

リターナブル梱包材利用に伴う削減効果

平成27年1月：**21.7t**

※リターナブル梱包材の利用に伴う削減効果はNGP協同組合独自のCO_2排出量削減の取り組みです。段ボールに代えて、専用梱包材を繰り返し使用することを前提に削減効果を算出しております。

自費修理入庫増加、そして自動車保険等級制度回帰のためリサイクル部品活用を拡大

(株)ガラージュモリ(奈良県奈良市)

エコな整備・修理を希望するカーオーナーに優良な整備事業者を紹介するWebサイト「NGPエコひろば」(http://www.eco-hiroba.net/)。同サイトにご登録いただいている整備・修理工場は約4千軒に達しております。
NGPエコひろば登録工場をご紹介する本コーナー、4回目となる今回は奈良県内を主な商圏とする(株)ガラージュモリです。同社の奥谷丈輝社長と、フロント担当の蔵田尚樹係長を訪れ、リサイクル部品の幅広い有効活用法について、お話を伺いました。

同社は1970年に鈑金塗装工場「森自動車工業」として創業し、その後1974年に乗用車と大型車の整備を行う第2工場をオープンしました。1983年に同工場を指定工場とし、1990年に現社名「ガラージュモリ」に変更すると共に、本社ショールームを設置しプジョー正規代理店となりました。

さらに1992年、鈑金塗装専門の第3工場を開設し、2003年には「プジョー奈良」専用ショールーム・サービス工場を設立して、現在の4拠点体制を構築しました。また、ロードサービスや福祉車両の整備・販売なども手掛けており、ワンストップで各種サービスをカーオーナーに提供できる環境を整えています。

現在同社では鈑金塗装、車検とも年間入庫台数が2,500台強に達していますが、鈑金塗装においては約7割を直需とDRPが占め、車検においても約1,000台のメンテナンスリースを受託しています。

同社においてリサイクル部品は、特に鈑金塗装では幅広く、創業当時より活用されてきました。NGPエコひろばにも、NGP組合員の勧めを受け、2010年に発足して間もない頃に登録しています。しかも「2000年にカーコンビニ倶楽部へ加盟したことを契機に、下請けよりも直需の割合が増え、自費修理で直接入庫するカーオーナーへ説明・提案するスキルを習熟していました」(奥谷社長)ので、2012年に自動車保険等級制度が改定され自費修理のニーズが拡大してからも、特に大きく苦労することなくリサイクル部品を提案・活用しているといいます。

では実際に、どのようなケースでリサイクル部品を活用しているのでしょうか?

鈑金塗装においては「Assy供給されるドアとフェンダーの交換にリサイクル部品を使う確率が最も高くなっています」(蔵田係長)が、バンパー交換においても「近年の車両では外観の補修は容易でも取り付け部を修正するのが難しい傾向にあります。その中で、車両に装着されていたものを取り外して生産されたリユース部品は装着が容易で使用しやすいため、積極的に活用しています」。さらに、修理費を可能な限り低く抑えたいという低年式車のカーオーナーには、外装のリサイクル部品を再塗装せずそのまま装着することを提案しており、「多少色味が異なっていても、喜んでお乗りいただいております」。

平均使用年数が長期化している昨今、整備においてもリサイクル部品を使用する機会は増えており、「すぐに次のクルマに乗り換えず、1台のクルマを長く大事に乗り続ける人のための選択肢を用意することが、私たちには求められています。そのために、リサイクル部品を活用しています」(奥谷社長)。

具体的には、リビルト部品を中心に「スターター、オルタネーター、ドライブシャフトが圧倒的に多く、ウォーターポンプやパワーステアリングオイルポンプの交換でも使います。また、片側のみヘッドランプの交換が必要な場合には、外観や光量の状態を合わせるために使用します」(蔵田係長)。

なお同社では、「“中古部品”という表現ではイメージが悪いため、“リサイクル部品”あるいは“エコパーツ”としてカーオーナーに提案しています。それで通じない場合、“中古部品”と表現すれば理解はしてもらえるのですが、やはり抵抗感を示す人はいます」(蔵田係長)。こうした実情を受け同社では、リサイクル部品はしっかり検査を受け洗浄された状態で納品され、さらに機能部品には一定期間の品質保証も付与されることを、丁寧に説明しています。

そのため、「“リサイクル部品”と呼ばれるようになる以前と比べ、納品前に提示されるデータとのズレが少なくなり、絶対的な品質も確実に向上していることもあり、“中古部品”というイメージとのギャップに驚かれるカーオーナーは多くいらっしゃいます。また、リサイクル部品を使用したことによるトラブルも発生していません」。

しかしながら、今後リサイクル部品へのニーズがさらに高まれば、カーオーナーへ説明・提案する機会もますます増えることが予想されます。奥谷社長は「品質保証のある機能部品以外も含めたすべての部品に検査証を添付していただければ、カーオーナーにその有用性を説明しやすくなり、リサイクル部品の認知度も高まるでしょう」と、NGPグループにおける品質管理の“全数見える化”をNGP協同組合に提言しています。

「等級制度改定により保険修理が減少したばかりか、損傷しても修理せずそのまま走り続けるクルマが増えています。そこからニーズを掘り起こし、自費修理での入庫へと導くため、特にフロントの知識と接客レベルを高めていきます」という同社。リサイクル部品の活用拡大を通じ支払保険金が減ることで、自動車保険が元の使いやすい状態に戻ってほしいと強く願う同社がその願いを叶えるため、リサイクル部品活用の機会をさらに拡大させていくことは間違いなさそうです。

奥谷丈輝社長(左)、蔵田尚樹係長(右)

「カーオーナーに安心してもらえるよう常にキレイにしている」という本社ショールーム。リサイクル部品活用の提案はこの中で行われる

フロント部修理で入庫中のトヨタ・ノア。対物保険の限度額を超過したためボンネット及び右フロントフェンダーにNGPリサイクル部品を使用

NGP組合員かわら版

「第８回自動車リサイクル部品ロジスティック研究会」を開催
作業効率と安全性の向上に寄与するからくり段ボールを推奨品として展開

（株)NGP（長谷川利彦社長）、（株）ビッグウェーブ（服部厚司社長）、（株)JARA（北島宗尚社長）、ARN（岡田誉伯代表）、（株）エス・エス・ジー（浜田泰臣社長）、（株）ブロードリーフ（大山堅司社長）、（株）システムオートパーツ（土居英幸社長）、部友会（鳩村昭二郎会長）及び大手運送会社による「自動車リサイクル部品ロジスティック研究会」（ロジ研）が、2月17日に（株)JARA本社（東京都中央区）で開催されました。

第８回となる今回は、プレステック（株）による、ドア梱包用にあらかじめ切れ込みが入れられた「からくり段ボール」及び、不備の多い梱包が後を絶たない個人ユーザーやロジ研に属さない業者との差別化を図るためのカラー印刷入り段ボールの説明を受け、実物でその効果を確認、検討しました。その結果、作業効率と安全性の向上に寄与し、コスト増も最小限なからくり段ボールを、ロジ研推奨品として各社団体の会員・組合員に展開していくことが決定されました。

また、前回決定されたR30W系トヨタ・エスティマのバックドア及びヘッドランプ梱包作業の動画マニュアル作成のため、各社が撮影した動画を視聴し、各社の資材コスト、梱包時間、人件費を含めた総合的な梱包コスト、そして梱包作業時及び運送時の安全性まで詳細に比較しました。

次回以降については、X100系トヨタ・マーク２用フロントグリル付きボンネット及びフロントフェンダーの梱包作業を各社撮影し、新たなマニュアルの作成に向け検証作業を進めるとともに、W30系トヨタ・プリウス用バックドアの通常梱包及びからくり段ボールを用いた梱包作業を別途撮影、検証することで合意しています。

第８回初級生産管理者・フロントマン研修会開催
現場ですぐ活用できる知識を受講生同士で共有

第８回初級生産管理者・フロントマン研修会が２月20～22日の３日間、BumB（ぶんぶ）東京スポーツ文化館（東京都江東区）で開催されました。初級生産管理者研修会に12名、初級フロントマン研修会に10名が参加して、初日には双方ともNGPシステムの基本知識と運用ルールを学びました。

２日目以降の講義は生産管理者とフロントマンとに分かれ、生産管理者はリサイクル部品商品化システムの流れ、程度説明の標準化、商品定義、車両入庫マニュアルの詳細などについて説明を受け、正確かつ厳格な品質管理と商品登録の重要性を学びました。

フロントマンは、お客様対応の基本とポイント、フロントマンの基本理念、保証規定などを学習したのち、自己販売分析を通じて受注納品管理表から弱みと問題点を発見しました。さらに受注から商品の納品、売上計上、納品書の発行までを実践的にシミュレートしました。

初級生産管理者研修会に参加した（有）國寅商店の滝本空さんは「成功するための準備がいかに大切なものかを実感する３日間でした。１・２日目に何度もやり直した挨拶訓練が、最終日には22名全員が同じ気持ちで同じ方向を向くことによりすぐに合格することができました。これがNGPグループ全体でも可能になるよう、まずは自分自身がこの意識を持ち続けます」と、事前の準備と“合わせる”ことの重要性を再認識しました。

初級フロントマン研修会に参加した（株）大橋商店の大橋一樹さんは、「講義の内容は実践的で、営業に活かせるヒントが多く得られました。また、同じ班の仲間との親交を深め、システムの上手な使い方、フロントマンの心構えなど、知識を共有することができました。今後も仲間と継続的に知識の共有や助け合いをしながら、お客様にもNGPの仲間にも信頼されるフロントマンになっていきます」と、講義内容はもちろん他社との親交を深めるという点でも同研修会を有効活用しています。

そして、「梱包作業では毎月50回以上リターナブル梱包材を使い、少しでも運送料金を抑えます」（（株）福島リパーツ、椎野涼斗さん）、「クレームが発生しても感情的にならず、冷静かつ思いやりのある対応をします」（（株）アイエス総合、菊地恵美子さん）と、生産管理者、フロントマンとしての決意を表明しています。

初級生産管理者研修会では石井講師が、車種ごとの構造上の特徴や不具合頻発個所を詳細に把握することで、より正確かつ効率的な商品登録が可能になることを例示

初級フロントマン研修会では白石講師が「イメージと違うものが届けばお客様は不満を持ちクレームが発生する」と、部品の状態を正確に伝えることの重要性を強調

組合員情報変更

支部	会社名	変更内容	変更後	変更日
九州	株式会社アール・トーヨー	会社代表	代表取締役　斎木 崇司	27年2月1日

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合事務局
〒108-0074　東京都港区高輪３丁目25番33号　長田ビル2F
TEL:03-5475-1208　FAX:03-5475-1209
http://www.ngp.gr.jp/

株式会社NGP
〒108-0074　東京都港区高輪３丁目25番33号　長田ビル2F
TEL:03-5475-1200　FAX:03-5475-1201
http://www.ngp.co.jp/